

増加するアスベスト被害相談

岡山アスベスト 健康被害相談会に4名

『中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会』とおかやま労働安全衛生センターは、ひょうご労働安全衛生センターの支援のもとアスベスト健康被害相談会を10月12日岡山国際交流センターで実施しました。

相談には4名の被害者が来られました。内容は

水道の配管保温工事をしていた。現在健康管理手帳をもらい検診に行っているが、いつまで受けたらいいのか。

岡山積水工業でピーターの製造で配合の仕事をしていた。健康管理手帳あり、健診でプラクあり、小粒状ありと診断。今後健診で変化を注視。

松下電子工業照明事業部で排気工程の仕事で、不良ランプの取り出しに、アスベスト入りの手袋を使用していた。健康管理手帳の申請をホロシた。

久世グンゼ工場で40年勤務していた。9月初めに岡大

で中皮腫と診断され、9月29日死亡した。工場の建物にアスベストを使用していたと総務課長が話していた。仕事はヘンシヨク部門・編み機のメンテナンス・倉庫での原系の保管などとしていた。

以上の人たちが相談に訪れました。

山陰地域アスベスト

健康被害相談会に9名

昨年暮れの12月7日・8日松江市で、中皮腫。アスベスト疾患・患者と家族の会主催で山陰地域で初めてホットラインとアスベスト健康被害相談会を実施しました。事前にマスク対策を行い、全紙が掲載しましたので、9名の方がホットラインと現地に相談に来られました。

内容は、建屋の解体作業を21年間仕事をした。現在両肺に「胸膜肥厚」・「粒状影あり」で歩くのがつらい。

39年間郵便局に勤務し、その間会計担当で郵便局の建物の改修工事・アスベスト除去工

事に立会っていた。胸膜プラクありと診断された。郵便局は使用してないと言われた。2012年に肺がんの手術をし、労災認定を受けたが、その後会社から連絡がないし、退職者には何の補償もない。16年間東レ名古屋工場保温材を扱う仕事をしていた。東レから連絡があり、健康診断を受け、健康管理手帳を取得した。将来が心配。

日立造船時代の4年間は周辺で石綿を使用していた。その後他の事業所では、石綿を触る仕事をした。

現在、胸膜肥厚・プラク、石灰化と手帳に記載されている。主人が肺けつ症と言われ、アスベストが原因、仕事は下請けをしていたが、認知症でよくわからない。

31年間兄のもとで大工の仕事に従事。病院でアスベストが原因と言われた。31年間電気工事をした。胸膜肥厚と言われた。

ダクトやボイラーの保温材の工事に従事。健診を受けているが補償はしてもらえないのか。

ストレスと健康障害

労働法の規制緩和により長時間労働へ道を拓げようとしています。

いま職場では長時間過密労働によって、強い不安や悩み、ストレスを感じる労働者が増えています。1か月の残業時間が45時間を超えると睡眠時間は少なくなり、疲労が蓄積し危険な状態となります。

また自宅での持ち帰り残業が加わると大変危険な状況がうまれます。

労働は本来労働の喜び、幸福を伴うものですが、今日では労働強化のなかでストレスが増幅され健康障害を引き起こしています。

ストレスの原因は長時間労働による疲労の蓄積、職場の間関係、職場での不満や不安などと言われています。

ストレスによる過労状態では心理的な無関心・無気力状態になり、刺激に敏感となり怒りばくなり、自律神経症状から身体の異常をきたします。

次回につづく